

自己評価及び外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・朝礼後には事業所の理念を読み合わせしていた。人材不足とケアのマンネリ化で実践が出来ない日もある。	事業所独自の理念は管理者を中心に職員との話し合いによって定められた。その理念は玄関に掲示され、パンフレットにも記載されている。	全職員が事業所独自の理念の意味を理解して共有することを期待します。さらに地域や関係者など外部に伝わる工夫も期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	・レクの一環として地域の小学校と交流を行っている。グループホームを知ってもらう。	ご近所の方からお茶に誘われたり、地域の方にはボランティアで事業所にきていただくなどの協力を頂き、事業所の様子や地域の出来事などの情報交換ができています。	年間行事として近隣住民・小中学校・高等学校・利用者・家族・行政などに声をかけ実施してきた行事を継続して行うなど、今後も地域との関係を継続的に深めていくことを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・地域の高校生の介護自習を積極的に行ない、認知症の理解を得るようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	・定期的におこなっている。非難訓練の協力などを伝えるが、これと言った意見はない。	運営推進会議は定期的開催されていて、積極的に情報発信をしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くように取り組んでいる。	・聞きたい事がある時意外連絡を取る事は無い。	運営推進会議のメンバーでもある中野市の担当者に、相談にのってもらい、事業所の考え方や現場の実情等を伝える機会として、連絡をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回、身体拘束委員会中心に会議を行い、伝達を行っている。事業所で身体拘束は行っていないが、言葉の拘束が多い。	全職員が事業所内外での研修に参加していて、日々事例検討も行き、拘束をしないケアに取り組んで言葉の拘束もしないよう努めている。管理者は一部の職員の言葉使いが配慮に欠けているように感じるため、全体がスキルアップする研修を実施している。	ユニットリーダーや管理者が、職員のケアや言葉かけなどあらゆる面で気になった場合は、直ちに対応していただいています。今後はこれまで以上に適切に迅速であることを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月1回、委員会中心に会議を行い、伝達を行っている。年に数回事例を持ち全体会議で話し合いを行なっている。		

ツクイ信州中野グループホーム(千曲川ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、学ぶ機会を持っていない。スタッフが何処まで理解しているのか？把握しているのか？分からない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、管理者が計画作成担当者のどちらか契約書の読み合わせをしている。契約時以外でも説明を行なっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催し意見交換をしている。また、家族様来訪時には、意見や要望を聞きながら適切な運営ができるようにしている。	今年は、家族会への多くの参加の実現のため敬老会と兼ねた家族会を開催し、テーマを定めて話し合いをするなど家族の声や意見などを反映しやすいよう工夫している。	職員と利用者・職員と家族の関係等が家族的で、意見が運営や介護計画に反映されている関係です。今後は家族間の交流の充実を目指す工夫に期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やユニット会議で利用者様(以下「お客様」という)や家族様の意見や要望を伝達しながら話し合い、職員と意見交換をおこなっている。	毎月のユニット会議・全体会議では職員からの意見や要望が多くでていて、職員全体で検討して運営に反映させている。管理者は職員の意見を十分に聴き、活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフが働きやすい環境と法令に沿った運営を心掛けている。現在スタッフの休憩時間の確保に取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ユニットリーダー中心になり育成をしている。外部研修や内部研修に決まった職員ではなく、交代で参加をしている。参加後は、伝達を確実にこなしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域のグループホーム研修(交流)会に参加している。研修では、事例をもとに問題点に共有する場になっている。		

ツクイ信州中野グループホーム(千曲川ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日常生活において会話ををする時間を意識し、困ったことはないか、やりたい事はないか傾聴するようにし、お客様のおもいを知ろうと努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所時、来訪時には会話などしながら、信頼関係を築くように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期のアセスメントをしっかり行い、お客様が必要としているサービスに生かせる様にこころかけている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お客様が出来る事はおこなっていただいている。日々の生活から出来る事を見つけ、生活をしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	広報紙を発行しホームの様子を伝えている。来訪が困難な家族様には電話連絡をするなど報告を行いながら意向を伺っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会者には大きな声で挨拶をこころかけている。行き着けの美容室へ行き、地域のスーパーへ買い物に行っている。	日常の会話の中で利用者や家族からの情報収集に努めている。担当職員・計画作成者・管理者が話し合いをしてなじみの関係が途切れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お客様同士の会話にはスタッフが入り、意思疎通困難なお客様の会話を支援している。		

ツクイ信州中野グループホーム(千曲川ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後の家族様も来訪している。それまで生活を共にしていたお客様とも会話をする姿も見られる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や表情など、何気ない日常の様子からお客様の意向を把握する様に努めている。	利用者との日常の会話の中で意向の把握に努めている。個人ファイルにはその取り組みが記録されている。計画作成者・管理者を中心に職員が話し合いをして情報の共有をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	表情、仕草、日々の会話から生活歴や思い読み取るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家族様に情報収集するなど、スタッフと情報共有しながら把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスを行い、個々の情報や、意見、居室担当には要望を聞きながら、プラン作成に努めている。	居室担当者を中心に全職員・計画作成者・ユニットリーダーが、3か月1回のカンファレンスを行い、日常の気づきなどを反映させて介護計画を作成している。状況や状態の変化がみられた時もカンファレンスも行い、計画を見直して変更することもある。そして、その経過についても情報が記録されていて、過程を振り返ることができるようになっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録では小さい事でも記録するようにこころかけている。職員全員ノートには目を通すようにしている。申し送りノートは共有し活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	受診の付き添い、送迎は出来る限り柔軟に行っている。		

ツクイ信州中野グループホーム(千曲川ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月1回、地域から読み聞かせの会が来訪している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	1ヶ所の医師にお願いし往診もこころみだが、家族様の希望で、入所前からのかかりつけ医を受診している。お客様によって、送迎、付き添い受診がある為、今後往診も視野に入れる必要がある。	本人やご家族の意向に応じている。かかりつけ医への通院は家族の協力を得ている。訪問看護ステーションとも連携していて、通院の情報は家族や訪問看護ステーション等と共有している。	事業所の協力医として、往診対応する等の柔軟に応じてくれる地域の医療機関と連携するなど、医療支援につながることを期待します。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回地域の訪問看護がホームに入り、スタッフからの相談やお客様の様子を確認している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は洗濯物を取り行き、お客様の情報収集に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所の方針は契約時に伝えている。終末期には家族様の協力が必要になってくる。事業所では終末期の対応をしていない為、今後スタッフに説明しながら連携を計って行く事も課題になる。	入居時に指針の説明をしているが、入居者が重度化しているので、状態の変化に応じて家族やケア関係者と話し合いをしている。そして家族の同意を得て、その内容で対応している。	訪問看護ステーションと連携していて、支援に必要な情報を職員が共有する仕組みがあるのだから、その情報の意味を深く理解するよう全職員のさらなるスキルアップを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年に数回研修をしている。救急対応は、おこなっている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	運営推進会議などで、避難訓練を実施している。昨年は6月、11月におこなっている。	共有スペースや居室などにスプリンクラーが設置され、通報装置がある。年2回の避難訓練を行っている。消防署の指導を受けながら避難し、訓練の後は全職員が評価をして検証している。運営推進会議メンバーも参加したり、会議で報告検討を行っている。	職員連絡網や災害時役割分担表が作成されているので、緊急連絡訓練や自分の担当内容の把握やその実践などについての訓練等避難訓練のみではなく幅を広げた訓練実施にも取り組んでいただきたい。

ツクイ信州中野グループホーム(千曲川ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その方が分かりやすい会話をしている。親しみやすい方言を使うスタッフもいれば、マンネリ化になってしまい、声掛けが荒いスタッフもいる。今後の改善課題のひとつになっている。	全職員が、毎日のカンファレンスや会議で、利用者の人格の尊重やプライバシーを損なわないよう確認している。特に、排せ介助や言葉による誇りやプライバシーを損なわないように配慮している。管理者は職員の個別指導も実施して徹底を図っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	主に担当部屋が中心となり、情報収集をおこなっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	午睡を必ずおこなうのではなく、その人のペースでおこなっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で出来る方はブラシを使用し髪を整えていただき、洋服は自分で選んでもらう。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お客様に好きな食べ物を聞き、メニューに入れている。可能な限り、野菜切りや配膳をお客様と一緒にこなしている。	ホールの一角にあるキッチンからは食事作りの様子が見えて美味しそうな匂いがしてきます。野菜の下準備や配下膳や洗い物など一人一人の状態に応じて、職員と一緒にやっている。給食会議を設けて一人一人の好みに応じるよう努力している。好みに応じて外食も定期的にする。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェックを日々おこなっている。塩分制限があるお客様にはスタッフで周知している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを実施している。週に2回は義歯洗浄を行い、清潔保持に努めている。		

ツクイ信州中野グループホーム(千曲川ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	尿意、便意があるお客様の訴えには可能な限り支援している。困難な方には時間を確認しながら声掛け誘導をおこなっている。	職員は、排泄チェック表を活用して一人一人のパターンを把握して、可能な限りトイレを使用するよう支援するなど気持ちよく排泄する工夫をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々の生活の中で歩行訓練をするなど、予防に努めている。また、主治医、訪問看護と相談しながら下剤の調節を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	曜日、時間はホームで決めているが、順番は決めずお客様のタイミングでおこなっている。季節にあわせ、しょうぶ湯やりんご湯などを提供している。	週2回を基本としているが、一人一人の様子に応じた対応をしている。毎日の入浴を希望する方はその要望に応じるなど、個別な対応をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の希望に沿い、ホールで椅子に足を乗せ休まれる方、テレビを観ている方、思いを大切に支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全面的に支援している。出勤時には必ず薬のチェックを行い、誤薬や飲み忘れが無い様にトリプルチェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お客様が出来る事はおこなっていただいている。日々の生活から出来る事を継続していただいている。年に数回外出しホームの中では四季の行事を楽しむ事を支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出レクでは、近隣の高校生の協力を得ている。年に数回外出レクをおこない気分転換を計っている。	個別の希望に添い戸外への散歩や外食をしている。普段行けないような場所への外出は、可能な人には月に1回は実施できるよう努力している。職員のチームワークで、天気の良い日の求められた急な外出支援も実践できている。	

ツクイ信州中野グループホーム(千曲川ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホームでは個人のお金を所持する事はなく、立替金とし請求している。ただ、外出の目的に沿い、お金を渡し、個々で支払いをしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状は毎年送っている。請求書と一緒にメッセージを書くお客様もいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テーブルの配置を変え移動時のリスクを減らし生活感を出している。	ホールの中央では皆がテーブルを囲んで食事をしたり、作品作りをしていて、家庭的な空間になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	皆が平等に生活できるように、座る場所など工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時には家族様の思いに沿って居室の配置をしている。転倒のリスクが高くなったお客様には、家族様に相談、報告し周辺整備をおこなっている。	本人が大切にしている家具や仏壇を置くななど、家族の協力をいただきながら、本人らしい居室作りを大切にしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	文字の理解が出来る方には文章で説明し、自立して生活が1日でも長く送れる事を支援している。		